



日本ものづくり・人づくり 質革新機構が目指す“人づくり”

新しい年2004年が日本経済の本格的回復の年となることは、多くの日本人が抱く年初の偽らざる願いである。1990年代のバブル経済の崩壊後、10年以上が経過した現在もその後遺症に悩み、企業はその対策に追われてきた。こうした悩みに拍車をかけているのが、中国、東南アジア、インド等の海外諸国の低コスト製品と、製品品質の向上による産業競争力の隆盛である。

このような背景への危機感から、“日本ものづくり・人づくり質革新機構”（理事長：高橋 朗（株）デンソー会長）が2001年5月にスタートした。当機構は、日本の産業競争力の源泉は“ものづくり”にあり、その基盤は“人づくり”にあるとの確信から、新商品開発、ビジネスプロセスの革新、顧客価値創造と経営システムの自己診断法開発等の“ものづくり”関連の課題および医療の質向上に加えて、“人づくり”のための人材育成プログラムの研究開発等、幅広い課題に取り組んでいる。

日本の産業競争力の源泉である“ものづくり”を支えている製品の“品質”，およびそれを実現する“品質管理”の思想・手法への自信をさらに継続的に発展させるには，“経営幹部”，“クオリティの専門家”および“職場第一線の人”をいかに育成するかを示すプログラムの提案が不可欠と考え、学术界・産業界の専門家による研究開発チーム（部会）を編成し、提案書および教育カリキュラムの研究開発を実施中である。その内容は以下のとおりである。

◇経営幹部づくり：ものづくり業のイノベーションリーダーに求められる資質・能力を明確にし、そのリーダーを輩出するための育成プログラム（企業内における選抜方法，MOT教育のカリキュラム，企業内における実践教育の方法）を研究開発し，社会に提言する。

◇クオリティの専門家づくり：経営に寄与するクオリティ分野の専門能力（力量）を研究し，その育成プログラムを作成する。クオリティの専門家は，社会における企業・組織の価値創造活動を重点的役割とする“クオリティ・マネージャ”と，企業・組織が顧客に提供する製品サービスの価値創造活動を重点的役割とする“クオリティ・エンジニア”から構成され，そのコンピテンシー・ディクショナリーを提案する。

◇職場第一線の人づくり：職場第一線の人たちが意欲を持って働ける要因および能力発揮のできる条件を明確にして，人材育成の指針を“実務ノート”として提案する。この実務ノートは，すでに昨年8月に公表され，現在会員企業および希望者により活用されている。

これら課題の研究開発成果は，本年5月末までには報告書にまとめられ，企業における人材育成プログラムや行政機関における人材育成・能力開発の指導教材として活用してもらえるように公開される予定である。

日本ものづくり・人づくり質革新機構の組織的研究開発活動は，本年5月末をもって終了する予定であるが，各課題は，機構に参加している日本品質管理学会をはじめとする諸団体に引き継がれ，それらの成果の活用・普及が図られるとともに，新たな展開が期待されている。

じどう じゅんいち

略歴 1964年 福井大学工学部建築学科卒業後，株式会社竹中工務店に入社
1986年 同社技術研究所 主席研究員
1994年 同社TQM推進中央委員会 事務局長
2001年 日本ものづくり・人づくり質革新機構 事務局長